

2025 年 9 月 21 日（日）第二礼拝「不信仰な私を助けてください」マルコ 9 章 14～29 節

イエス様が三人の弟子を連れて変貌山で祈っておられた時、残った弟子たちは悪霊につかれて苦しむ子どもから悪霊を追い出そうとしましたが、その子は癒されませんでした。そこへ、イエス様が戻って来られました。

第一番目、イエス様は「不信仰な世だ。」と嘆かれました。弟子たちが悪霊を追い出すことができなかったのは、不信仰だったからです。弟子たちも親も、その信仰がありませんでした。その子がイエス様を見ると、霊はすぐに彼をひきつけさせ、彼は地面に倒れ、あわを吹きながら、ころげ回りました。悪霊は盗人であり、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするのが目的です。イエス様が来られたのは、私たちにいのちを豊かに与えるためです。その子の親は「もし、おできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください。」と言い、半信半疑でしたが、イエス様は「できるものなら、いうのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」と言われました。主が私たちに求めておられるのは信仰です。信仰があれば悪霊は追い出せますが、信仰がないと主は嘆かれます。

第二番目、信仰です。信仰とは、イエス様を信じることです。イエス様は、御言葉が人間となって来られた神様で、私たちの信仰の創造主であり、完成者です。聖書には信仰に関する御言葉が五百節あります。イエス様が弟子たちを訓練したのは、信仰の訓練でした。イエス様は癒しを行う時、「あなたの信仰があなたを救った。あなたの信仰の通りになれ。」と言われました。十二年長血を患っていた女性は、イエス様の着物に触れば治ると信じ、その通りに癒されました。また、イエス様は異邦人の百人隊長やフェニキアの女性の信仰を称賛されました。更に、イエス様は「あなたがたはわたしをだれだと言いますか。」と聞かれた時、ペテロは「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と信仰告白をしました。それを聞いたイエス様は喜ばれ、「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」と言われました。しかし、ペテロがイエス様の十字架を止めようとした時、イエス様は「下がれ。サタン。」と叱られました。そして、イエス様はペテロの信仰が揺り動かないように(なくならないように)祈られました。また、パウロも信徒たちの信仰がしっかりと立つように祈りました。イエス様が来られる時、重要なのは信仰です。その信仰により再臨の主と空中で会うのです。

第三番目、信仰を求めることです。「不信仰な私を助けてください。」という正直な告白を、主は喜ばれます。これは、悔い改めの祈りでもあります。信仰を求める時、主は私たちに信仰をプレゼントしてくださいます。これは神様の恵みです。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物(プレゼント)です。」(エペソ 2:8) 子どもは親の助けが必要です。親が子どもに食べものや教育を与えるように、信仰も親から与えられます。私たちには信仰がありませんが、主に求めるなら信仰が与えられます。その信仰によって悪霊につかれた子どもから悪霊が追い出され、その子は癒されました。信じるなら不可能が可能となるのです。アーメン！